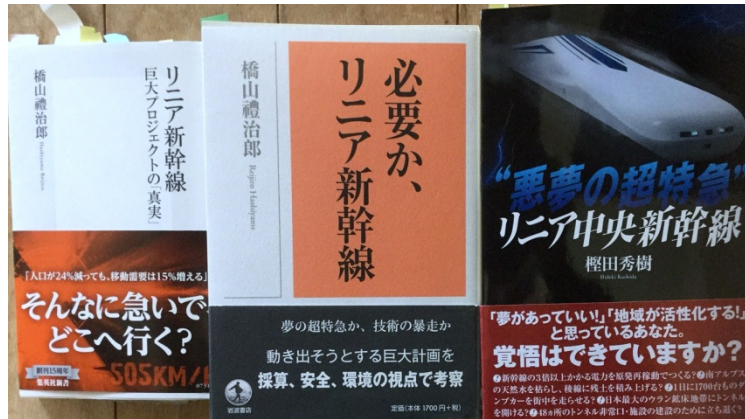


## 「リニア本」3冊を読む

「リニア本」とは勝手に名づけたものだが、写真にある3冊である。リニア新幹線について、なにか書いてほしいという「依頼」があり、この3冊を再読した。せっかくなので、レポートでも紹介しておきたい。

写真右は樫田秀樹『“悪夢の超特急”リニア中央新幹線』旬報社、2014年9月である。ジャーナリストらしく、リニア沿線各地を回り、環境アセスメントや事業「説明会」などの空疎な実態、地域住民の不安と怒りの声をリアルに伝える。大手メディアのリニア問題についての弱腰姿勢など、JR東海の体質と関わらせてリアルに明らかにしている。



あとの2冊は、政府系金融機関などで大規模プロジェクトに関わった橋山禮治郎さんの本である。写真中『必要か、リニア新幹線』は岩波書店から2011年2月に刊行されたもので、「動き出そうとする巨大計画を採算、安全、環境の視点で考察」している。写真左の『リニア新幹線 巨大プロジェクトの真実』集英社新書、2014年3月は、表紙カバーの「そんなに急いで、どこへ行く？」が印象的である。

橋山さんの本によると、リニアは従来の新幹線とはまったく違う鉄道だといった方が正確だ。レールも鉄車輪も架線もない。駆動方式は電気モーターではなく、強力な電磁力の利用による。高速走行のために膨大な電力が必要となる。従来の鉄道と決定的に違うもう一つの点は、他の路線への乗り入れがまったくできないことだ。これは柔軟なネットワーク性(相互運用性)をもつ在来鉄道と比較すると、利便性で大きな弱点である。リニアは鉄道というより、地上すれすれに飛ぶ飛行機に近いということもできよう。

こうしたリニアの技術的特性からして、環境・安全・採算など数多くの問題がある。橋山さんは「巨大プロジェクトの真実」から、次のように提言する。「いまJR東海が急ぐべきは、着工することではなく、『中央新幹線』を何のためにつくるのか、原点に立ち返って真剣に再検討することではないだろうか。」

これを書いていて昔を思い出した。1998年6月10日の朝日新聞論壇に「中部空港は万博前にこだわるな」という拙稿が掲載された。その最後を紹介しよう。「いま重要なのは、中部新空港を一過性の愛知万博と切り離すことだ。成田空港の教訓からも、空港建設にあせりは禁物なことを肝に銘じてほしい。」

(2015年2月4日)